

室生ダム アオコの発生確認と対応状況

独立行政法人水資源機構木津川ダム総合管理所が管理する室生ダム貯水池において、職員による巡視の結果、藍藻類^{らんそうい}ミクロキスティス等によるアオコの小規模な発生を確認しました。現在の状況及び取り組み等についてお知らせします。

1. 概要

■アオコの発生の確認

9月20日(水)10時に確認

■アオコを構成する藍藻類

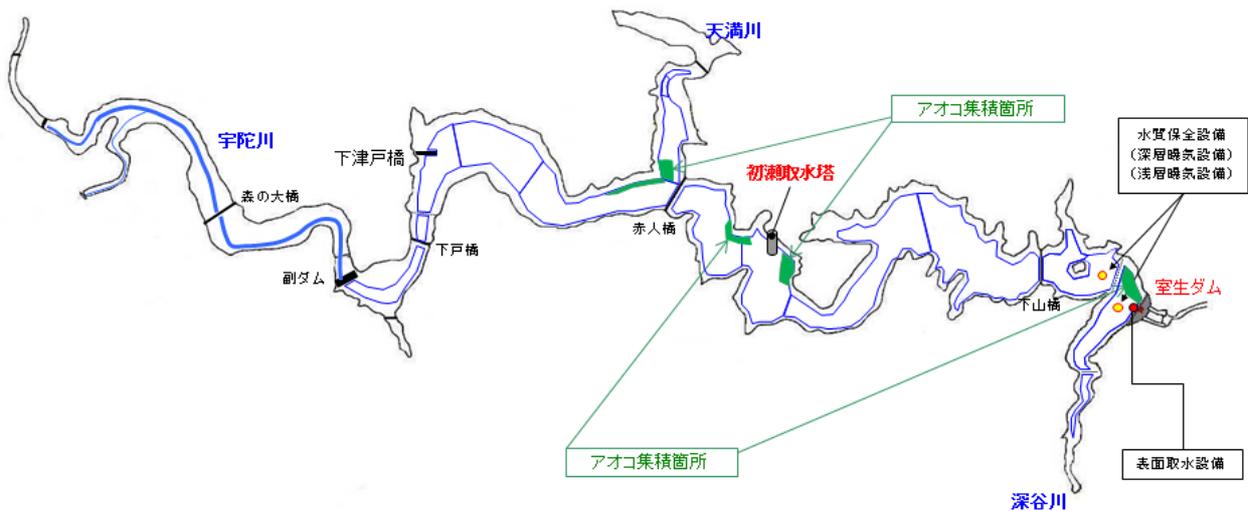
ミクロキスティス等

■発生場所・規模

ダムサイトから網場付近(100m×100m程度)、天満川流入部(100m×30m程度)、初瀬取水塔付近(300m×50m、50m×50m程度の2箇所)です。

下図発生位置図参照。

アオコ発生位置(平成29年9月26日)



2. 水質等 臨時調査結果

9月20日の採水により、アオコを構成するプランクトン種および水質調査を行いました。その結果は以下の通りです。

【9月20日採水調査結果】

調査地点		植物プランクトン cells/ml	クロロフィル _a μg/L	ミクロキスティン※1			2-MIB ng/l	ジオスミン ※2 ng/l	
				RR mg/L	LR mg/L	YR mg/L			
網場	基準点	表層 <i>Microcystis</i>	47,200	279	<0.0001	0.0001	<0.0001	2.1	0.8
初瀬取水塔	基準点	表層 <i>Microcystis</i>	32,100	220	0.0001	0.0001	<0.0001	2.2	0.9
		取水深 <i>Microcystis</i>	210	1.3	<0.0001	<0.0001	<0.0001	1.4	1.0
放水口		表層 <i>Microcystis</i>	2,000	10.2	<0.0001	<0.0001	<0.0001	1.9	0.9

※ 1 藍藻類ミクロキスティスの一部の種類は、毒性物質ミクロキスティンを生産することがあります。ミクロキスティンには LR、RR、YR の 3 種類があり、このうちミクロキスティン LR については水道水の要検討項目として目標値 0.0008mg/l(暫定値)とされています。

なお、水道水においては、ミクロキスティンは浄水場での塩素処理により分解されますので、水道水への影響はありません。

※ 2 2-MIB(2-メチルイソボルネオール)及びジオスミンはカビ臭の原因物質です。藍藻類の種などにより作られます。なお、水道水質基準においては、それぞれ10ng/l以下と定められています。

3. ダム貯水池巡視の強化

ダム貯水池においてアオコ発生状況の監視の強化及び水質調査を継続しています。

【参考】ミクロキスティスとは

ミクロキスティスは、植物プランクトンの藍藻類に分類されます。細胞は非常に小さな球形で寒天質の膜の中に集まり群体を形成します。

群体の大きさは、顕微鏡観察により確認できる大きさから群体と群体が結合することで肉眼でも見られる大きさになるものまであります。群体の形は、球形や楕円体状等になります。

細胞内にガス胞がある種は、顕微鏡観察では黒色に見えます。

